

◇被災地とつながる絵本◇

荒浜のなみだ



作・菅原みさお

企画制作・きむら さやか



◇絵本を読んでくださるみなさまへ◇

巨理町荒浜では、漁再開までこぎつけましたが、
放射性セシウムの問題で、苦しい状態になっています。

ガレキの問題でも、セシウムの高いものは地元で処理をしろ
とゆうことにも疑問を感じてなりません。
多くの方々に支援をしていただいて感動があつて、
セシウムの問題は別よ、、、と背を向けられた思いがいたします。

これもその場しのぎの政府の態度に不信感を抱かざるをえない
政府を信用できない状況のゆえだとおもいます。
怒りがこみ上げてきてなりません。

荒浜の現状を伝えたいと震災前荒浜に住んでいた方、
仕事をしていた方に3, 11の体験をお聞きして、
『荒浜のなみだ』という絵本を制作いたしました。

3人の方に、お聞きしました。
辛いお話でしたが、
みなさん伝えてほしいという願いから、
お話をしてくださいました。
お話ししてくださった方には本当に感謝申し上げます。

多くの方々読んでいただきたいと願っております。

2012. 6月

ポポ (菅原みさお)



おだやかで、のんびりとした様子

人々は、明日に向かって歩み始めました。

そこに大きく立ちはだかっているのは、放射能の問題です。
そこで、ポポは震災前、荒浜で仕事をしていた3人の方々に
お話を聞かせていただくことにしました。

かずおさんとみはるは、海の近くで食堂をいとなんでいました。

りゅうじさんは、漁師のお父さんを手伝いながら
わたり温泉で働いていました。

フロントにいたまりこさんは、お客様との出会いに喜びを感じていました。

4人の方々の3, 11の体験をとうして
亘理町荒浜の現状をお話したいと思います。



不安な様子

ガタガタガタ、、、。2時46分。
大きな揺れです。

みはるは1年前のチリ沖地震を思い出していました。
店を閉めて、お客様と様子を伺っていると、
揺れは、しだいに激しくなっていました。

お客様も、あわてて帰っていきました。



ストックの花言葉_愛のきずな

みはるは、外に目を向けました。
岸壁は地盤沈下していき、
地割れしていく風景に呆然となりまりました。

その時、携帯が鳴り出しました。

” 早く逃げろ!。津波が来るぞ! ”

かずおさんの声が響きました。



多くの方々が空へと舞い上がる

みはるは、娘と孫、愛犬のロック、猫の与作を車に乗せて
追いかけてくる波を背に車を走らせました。
それぞれが生きるために必死でした。

与作は1年前、溺れかけているところを、かずおさんに助けられ、
それから家族の一員として幸せに過ごしていました。
たどり着いたのは、山元町役場の広場でした。
広場は、避難して来た町民であふれていました。

人々は、流れていく人たちを救うことができなかったという、
言葉では表現しようもない悲しみでいっぱいでした。



忘れな草 私を忘れないで

一方、わたり温泉では、
まりこさんは、お客様に怪我があってはいけないと思い、
すぐに駐車場への避難をよびかけました。

車椅子のお客様を支えながら、周りに目を向けると、
松林は、グラグラはずんで揺れていました。

揺れはしだいに強くなって、
地面の液状化が噴水のように吹き上げていました。



まげずに力強く生きようとする姿

お客様は帰り支度を始めました。
そこに、町の職員がやって来ました。

「津波が来るから、すぐ屋上へ」

残った数人のお客様と従業員は屋上へと駆け上がりました。





父と母を失った幼子が、バラの花に母と同じ香りを見いだす

人々は押し寄せる波を屋上から見つめていました。

今まで見たことのない空の色、

波が立ち上がって、膨れ上がって近づいてきます。

あっという間にホテルは2階まで、海の中に埋もれてしまいました。

波がガンガン壁にぶつかって、まるで、滝の中にいるようです。

りゅうじさんは、1人で家に居たお母さんの無事を願っていました。

そして、夢中で写真を撮りつづけました。

3日後、全員無事にヘリコプターで救出されました。



カーネーション 亡くなった母への感謝

りゅうじさんは3日ぶりに、お父さんと再会することができました。

けれど、お母さんの姿はありません。

”どこかの避難所に居るにちがいない。”

そう信じて探し回りました。

けれど、1週間後、悲しい事実直面することになりました。

おかあさんは、家と一緒に流されていたのです。



福寿草_思い出 回想

数日後、みはるとかずおさんは、家に行ってみました。
金庫は開けられて空っぽになっていました。
情け容赦のない非情さに心が打ち碎かれるようでした。

悲しみに追い討ちをかけるように壊れた家の前で
Vサインをして写真を撮っている若者に
必死に怒りをこらえる2人でした。





わかれ

今回の出来事は、かずおさんにとって、
心だけではなく、体にも大きな痛手をおいました。
車の運転中、脳梗塞で動けなくなって救急車で運ばれて、
その2日後悲しい別れとなってしまいました。

数日後、家の掃除中、それは本当に不思議なことに、
「かずおさんの誕生日の記念」にと作った
2人の似顔絵入りのコーヒーカップ、、、、
かずおさんのコーヒーカップだけが、
土の中から顔を覗かせていたのです。

それは、まるで「頑張って生きろ！おれはいつも、ここにいる。」
と、みはるに語りかけているようでした。



未来へ向かって

りゅうじさんのお父さんの船、清幸丸は、修理をして
漁ができるようになりました。
多くの船は流されて、残った四隻の船は、
共同船として使用することになりました。
そして、ふれあい市場も震災から9ヵ月後、
仮設店舗で再オープンをはたしました。売り上げも順調でした。

ところが、
4月から放射性セシウムの基準値がきびしくなり、
一部の魚から基準値を上回る値が検出されました。
漁自粛を余儀なくされ、
市場には安全が確認されたものだけを、
置いているにもかかわらず、
風評被害がともなって売り上げが激減してしまいました。



ハートのろうそくのほのお__人々のいかり、悲しみ、希望、祈り、願い、
すべてが炎となって空へ

漁師にとっては、死活問題です。
みはるも、まりこさんも、もう1度荒浜で仕事をしたいと願っています。
福島では、原発のために、多くの方々が故郷を追われました。
それでも、政府は、原発を動かそうとしています。

ポポは、空を見上げて、叫びました。

「元の海を、返せ、、、、！」

ポポは信じています。

あの笑い声が、あの、にぎわいが、
再びここに戻ってくることを、、、、

ポポには見えます。

大漁旗が！



◇巨理町荒浜の関連リンク紹介◇

震災直後の巨理町荒浜の空撮写真のページ と
巨理町荒浜・清幸丸の底引き網漁再開の記事(河北新報)
のリンクをご紹介します。

ガレキは撤去されたものの、何もない風景は1年を経た今もそのままです。

「わたり温泉」の建物も映っています。

わたり温泉は現在、3階に建設工事業者が寝泊りして、
復旧工事をおこなっています。
2年後に営業再開の予定です。

震災直後の巨理町荒浜の空撮写真

<http://shi.na.cocan.jp/watari.arahama.230424.html>

巨理荒浜・清幸丸の底引き網漁再開の記事(河北新報)

http://www.kahoku.co.jp/spe/spe_sys1062/20110708_07.htm

野田総理が原発収束宣言をしても 炉からはまだ放射能が出続けて
町へは人間が立ち入る事ができず 手付かずにのままに
3.11のまま荒れ果てている現状です。
そこには収束に向け現場で危険の中
身を呈して働いてくださって居られる方達があり
それには頭が下がります。

避難者の私は一年が過ぎた今も 胸の奥に深くふかく
沈み込んでしまったものが抜け切れずにいるのです。
が、今回のお便りを頂いたように、これまでには内外からの
たくさんの暖かいご支援をいただきました。
心からうれしく感謝致しております。
まだ このように明日が予測できない現状ですが、
仮設の者一同協力し合い仲良く元気に
いたわり合いながら 希望をすてずにいたいと思っております。(後略)

震災復興はまだようやく始まったばかりです。
被災地で生きる方々のことを忘れないで、これからも
自分にできる小さなことを積み重ねていきたいと思っています。

2012年6月

HEART ART きむらさやか

沢松組が全英テニス優勝 1975年

テニス全英オープン(ウィンブルドン)選手権女子ダブルス決勝で沢松和子と日系米人アン・キヨムラのペアがフランス・オランダ組を破り、優勝した。日本人の優勝は34年、教え子の英人女性と組んだ三木竜喜以来。女子の優勝は初の快挙。

東北電の電気予報(5日)

4日午後6時7分発表

最大供給力
1392万kW

予想最大電力需要
1060万kW



使用率 76.1%

ピーク午後2時台

震災と「今」絵本に

菅原さんは震災当時、吉田地区の長瀬浜にあった自宅に一人でいて津波に襲われた。2階に逃げて一命を取り留め、翌日救助された。避難所で不安と悲しみを紛らわしてくれたのが、5年前に興味で始めた絵画。色鉛筆を手にも何枚も描くと心がほぐれた。「描くことで精神的に救われた」と振り返る。

昨年10月、仙台市内で紙芝居の読み聞かせをしている友人の勧めで、自分の体験を「いのり〜ボボからの招待状〜」にまとめた。津波の恐怖や再び絵筆を握った喜び、支援してくれた方々への感謝。さまざまな思いを主人公の少女「ボボ」に託し、色鉛筆とアクリル絵の具を使って優しいタッチで描いた。

津波の恐怖、支援に感謝、風評被害…

巨理町で被災した主婦菅原みさおさん(60)が、自分や住民の体験を題材にした絵本をインターネットで発表している。「悲しい記憶を多くの方に知ってほしい」。強い願いを胸に書いた作品は合計で約7000件のアクセスを集めるなど、共感の輪が広がっている。

巨理の主婦 ネットで作品発表



仮設住宅で3作目の制作に取り掛かる菅原さん

菅原さんは「震災の記憶の協力も得て、震災から1を風化させないため、ここ年後の3月11日にブログに起きたことを全て伝えた。掲載。これまで約6000」と発表の場を求めた。件のアクセスがあり「子と東京のイラストレーターらにも見せたい」「これから

「心の内はき出し前へ」

も書いて」など全国からエールが寄せられた。

6月16日には2作目「荒浜のなみだ」を発表。荒浜で働く漁師、旅館経営者ら3人を取り、震災からの歩みや福島第一原発事故による風評被害に苦しむ現状を描いた。すでに約1000件のアクセスがある。

現在は3作目を準備中。夫と2人で暮らす1LDKの仮設住宅で制作に励む。

「自分の心の内はき出すことで前に進んでいける気がする。書きたい題材はたくさんあるので、これからは被災地の今を伝えていきたい」と菅原さん。書籍や紙芝居としても発刊するのが夢だという。

ブログは検索サイトで「菅原みさお」や書籍名で調べると表示される。

荒浜のなみだ



菅原さんの2作目「荒浜のなみだ」の表紙

◇被災地とつながる絵本『いのり』のご紹介◇

絵本「荒浜のなみだ」の作者・菅原みさおさんの
1作目の絵本「いのり～ポポからの招待状～」も下記のURLにて
閲覧、ダウンロードして頂くことができます。

自らの震災体験を仮設での暮らしの中で、絵本に描かれた作品です。
また、震災直後の避難所生活の中で描かれていたとは思えない
優しい夢のある絵もご覧いただけます。
ぜひ 絵本「いのり」も合わせてご覧ください。

被災地とつながる絵本『いのり～ポポからの招待状～』

作・菅原みさお

<http://p.booklog.jp/book/46837>